

# 私たちがめざす学校事務

～教育支援の実践と展開～

企画推進委員会担当

研究責任者 福島市立岡山小学校  
主査 菅野 みゆき

発表者 伊達市立大石小学校  
主査 渡邊 美由紀  
郡山市立湖南中学校  
主査 渡辺 英美子  
矢祭町立東館小学校  
主査 吉田 睦子  
猪苗代町立緑小学校  
副主査 栗城 由香

司会者 福島市立岡山小学校  
主査 菅野 みゆき

指導助言者 いわき市立平第三小学校  
校長 下山田 和順様

記録者 伊達市立小国小学校  
主査 羽賀 陽子  
二本松市立小浜中学校  
主査 齋藤 富美子

## 私にとっての教育支援とは

～小規模校に勤務してみえてきたこと～

伊達市立大石小学校 主査 渡邊美由紀

### 1 はじめに

教育事務所指定のへき地校での勤務が多い私にとって、小規模校であるがゆえにどの学校でも職員一人ひとりの声がよく聞こえ、情報は伝わりやすい環境である。このような中、学校が以前に比べ忙しくなったのはなぜだろう。特に複式学級のある前任校や現任校では教員一人当たりの校務分掌が多く、その事務処理にかかる時間も長いため多忙を極めているように見える。児童がより良く成長していくために、教員がゆとりを持って指導していくことが大切である。そのために私に何ができるか、教員が校務分掌を効率的に行えるよう条件整備をする等の何らかの形で教育支援ができればと考えている。

### 2 私が取り組んできたこと

#### (1) 事務の効率化

① 手書きの帳簿類の電子データ化

② 職員室内コンピュータのLANの活用と使用環境整備

#### (2) 学校予算の適正かつ効率的な執行

#### (3) 教師用及び児童用コンピュータの使用環境整備

### 3 私の求めた教育支援

### 4 今後の課題

## 湖南小中学校（小中一貫校）の開校に携わって

～わたしのどたばた体験記～

郡山市立湖南中学校 主査 渡辺英美子

### 1 はじめに

「湖南地区は、近年少子・高齢化が進み、複式学級が増加することが予想された。地元では複式化を回避し、よりよい環境の中で子どもたちがのびのびと楽しく学べるようにしたいという思いから『湖南地区小学校の統合を促進する会』を立ち上げ、市に対して統合小学校建設等に向けた活動を積極的に行った。

市は、地元の熱意を受けて、月形小・中野小・三代小・福良小・赤津小の5つの小学校を統合し、既存の湖南中学校の隣に新たに『湖南小学校』の校舎を併設させ、小中学校を一体的に整備するとともに、『小中一貫教育』を全国に先駆けて実践することとなった。

校舎建築にあたっては、地元の財産区や婦人会から『子どもにぬくもりと潤いのある木材をふんだんに利用した校舎に』と手塩にかけて育ててきた貴重な杉材が寄附された。このような保護者と地域と市の思いがひとつになり、湖南小学校は開校した。」（湖南小中学校要覧より）

縁あって小学校の廃校から小中一貫校の開校まで関わった体験から、小中一貫校の様子や事務職員として感じたことなどを発表したい。

### 2 統合を促進する会が発足するまで

#### (1) 急激に進んだ少子化

平成6年度湖南5校で476名いた児童が、平成10年度には284名まで減り、その後も減少の一途をたどっていた。

#### (2) 少子化ゆえに

- ・ 各種大会への参加→小学1年生や2年生も選手に。（体力や能力の問題）
- ・ PTA会員の減少→人手不足と資金不足
- ・ 過疎への拍車（恵まれた教育、養育環境を求めて、町へ）

#### (3) 地域（区長会）と保護者の交流の中で

- ・ 学校の行事は地域の行事（その場で図られる交流）
- ・ 今湖南にいる子どもたちによりよい教育環境を！→統合を促進する会の発足

### 3 閉校にあたって

#### (1) 平成15年度 郡山市立赤津小学校にて

- ・ 市教委による各種現況調査（備品、図書館図書、郷土資料、輸送関係）
- ・ 校長と教育委員会の打合せ、作業内容の説明
- ・ 湖南地区小・中学校教員授業交流事業開始
- ・ 備品の整理作業（第1段階；学校ごとに廃棄・余剰・統合小での使用の分類）
- ・ 事務職員引上げの内示（平成16年度） 「校長・教頭が事務職員！？」
- ・ 文書を分類、保存年限ごとの箱詰め作業

## (2) 平成16年度 郡山市立福良小学校にて

- ・ 異動と事務職員引上げ校とPTA西ブロック事務局
- ・ 郡山市事務研班別研修会での取り組み→教育委員会担当者との打合せ
- ・ 備品の整理作業（分類作業とリストの作成、数度にわたる廃棄の作業）
- ・ 備品の調整作業（市教委担当者と統合小学校で使う備品の検討、調整）
- ・ 必要書類の整備（備品の廃棄申請、管理換え調書の作成）
- ・ 決まらない跡地利用と寄贈物品の対応
- ・ 文書の箱詰め作業
- ・ 図書館図書管理ツールへの登録作業
- ・ 職員全員の転出書類
- ・ そして引越し

## 4 いよいよ開校

平成17年4月1日 郡山市立湖南中学校へ赴任した。初の中学校勤務と小中一貫校の開校。

### (1) 入学式までに

- ・ 足の踏み場もないほど積み上げられたダンボール
- ・ 小学校職員が全員転入、割愛採用者3名、新規講師3名。小学校事務は…。

### (2) 小中一貫校教育のために

- ・ 校舎の一体化、教員は小中兼務、小中一緒の職員室と事務室
- ・ 共通の教育目標、教育課程の一貫性、小学校5、6年生からの教科担任制

## 5 1年目の湖南小中学校

### (1) 湖南小中学校の窓口として～電話と視察、保護者の不安～

### (2) 物品の収納と余剰物品

### (3) 小中合同でできる行事、それぞれの行事

### (4) 会議、そしてまた会議

### (5) 司書補の配置

## 6 おわりに

小中一貫校で子どもたちにより良い教育環境を提供するために事務ができることは何だろうか。今抱えている課題とこれから取り組まなければならないこと、やらなければならないことは山積みとなっているが、ひとつひとつ解決していきたい。

## 4つめのM 私 の M i n d

施設環境へのかかわり ～ 児童トイレへの配慮

集金事務の見直し ～ 集金を「世帯」で考える

教育課程と予算 ～ かかわりへの第1歩

矢祭町立東館小学校 主査 吉田 睦子

### 1 はじめに

### 2 “私のMind”

#### (1) 「学校の支えになりたい。学校を良くしたい！」

##### ① 施設環境改善へのかかわり

児童トイレへの配慮 保護者との連携・地教委の理解

##### ② 集金事務の見直し

「全員集金」から「世帯集金」に切り換える。

次のア、イについて集金袋による現金での集金を行っている。

ア 諸会費（PTA会費、学級費、図書費、児童会費、緑化費）

各学期1回（4・9・1月）

イ 教材費・遠足等代金（ドリル等、遠足・宿泊学習代金）

諸会費集金月を除く月（5・6・10・11・2月）

ウ 給食費 各方部の保護者が班を作り、その班で集金を行う。

年11回（4月～2月）

##### ③ 教育課程と予算

まず教育計画へ予算の項目を載せていく。～研究班Bの取り組みから～

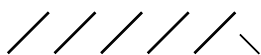
#### (2) こんな私になりたい。

##### ① 職務上伝えるべき情報を伝えるタイミングを知る。

→書いたこと、言ったことに対する責任を果たす。

##### ② “支え”になること

### 3 おわりに



## 私の実践、そしてこれから

～人と人とのふれあいを大切に～

猪苗代町立緑小学校 副主査 栗城 由香

### 1 はじめに

### 2 教育活動への関わり・子どもたちとのふれあい

#### (1) 小規模校に勤務しているからこそできることを

① 鼓笛練習や合奏活動への参加

② 入学式、卒業式で

#### (2) 子どもアンケート

### 3 山潟小ファイナル

#### (1) 思い出づくりの取り組みから

① 運動会

② 閉校記念祭

③ 閉校記念式典

#### (2) 緑小への引っ越し

### 4 緑小学校開校

#### (1) 開校式・入学式まで

#### (2) その後の日々

### 5 これから目指すこと